地域環境科学部

地域創成科学科

Dept. of Regional Regeneration Science

森・里・川・海の自然環境の恵みを活かし
人と自然が共生する豊かな暮らしと
持続可能な地域環境の創成を目指す

地域創成科学科は、次のような人を求めています

（1）地域づくりに強い好奇心・関心を持っており、それに関連する専門知識や技術を修得するための基礎的学力を有する者

（2）持続可能な地域づくりに向けて、広い視野を持ち、他者と協力して積極的に行動できる者

入試情報

推薦入試

出願時に提出する「書類（調査書・推薦書）」と、試験当日の「小論文」「面接」の総合的評価です。
オープンキャンパスや収穫祭の進学相談会で相談できます。

センター試験利用入試

センター試験の成績のみで合否を判定し、本学独自の二次試験や面接等は実施しません。
同時に複数学科の併願や同じ学科の「4科目型」と「3科目型」を併願することも可能です。

一般入試

選択式マークシートの筆記試験の成績のみで合否を判定します。

▶I期試験

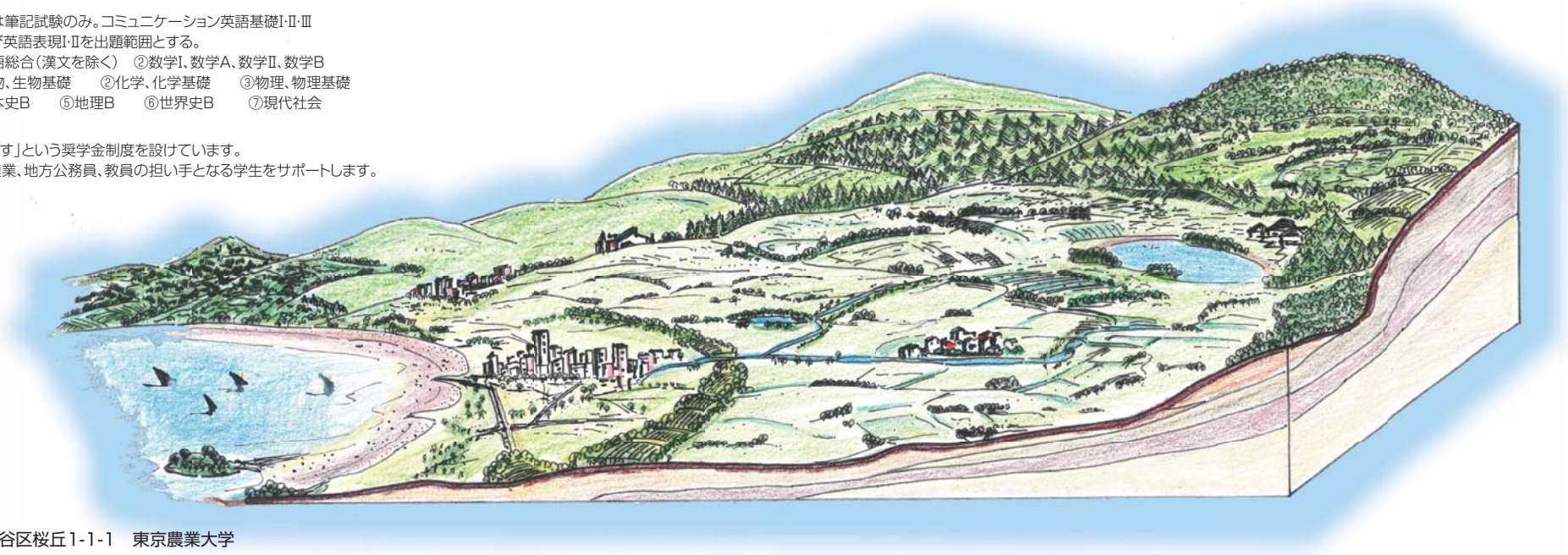
•受験日自由選択制	試験は3日間。全学部全学科とも3日間のうちどの日でも受験が可能。
•同一学科複数日受験制	同じ学科を最大3日間受験可能。
•学部学科併願制	1日の受験につき複数学科の出願が可能。入試科目の選択Ⅱは各学科が共通して選択可能としている科目を受験することが条件。

▶入試科目

•指定　英語	英語は筆記試験のみ。コミュニケーション英語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび英語表現Ⅰ・Ⅱを出題範囲とする。
•選択Ⅰ（1科目選択）	①国語総合（漢文を除く）　②数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B
•選択Ⅱ（1科目選択）	①生物、生物基礎　②化学、化学基礎　③物理、物理基礎 ④日本史B　⑤地理B　⑥世界史B　⑦現代社会

奨学金制度

東京農業大学では「人物を畑に還す」という奨学金制度を設けています。
卒業後、出身地で農林水産の関連業、地方公務員、教員の担い手となる学生をサポートします。



所在・問い合わせ先

〒156-8502　東京都世田谷区桜丘1-1-1　東京農業大学

▶交通アクセス　小田急線 経堂駅下車（徒歩 約15分）、千歳船橋駅下車（徒歩 約15分 ）
東急田園都市線　用賀駅下車（徒歩約20分、バス約10分）

▶入試センター　TEL 03-5477-2226　FAX 03-5477-2615　Mail nyushi@nodai.ac.jp
HPアドレス　http://www.nodai.ac.jp/

人物を畑に還す
東京農業大学

学科長からのメッセージ

地域創成科学科　学科長
竹内　康

地域環境科学部に第４番目の学科として『地域創成科学科』が誕生いたしました。

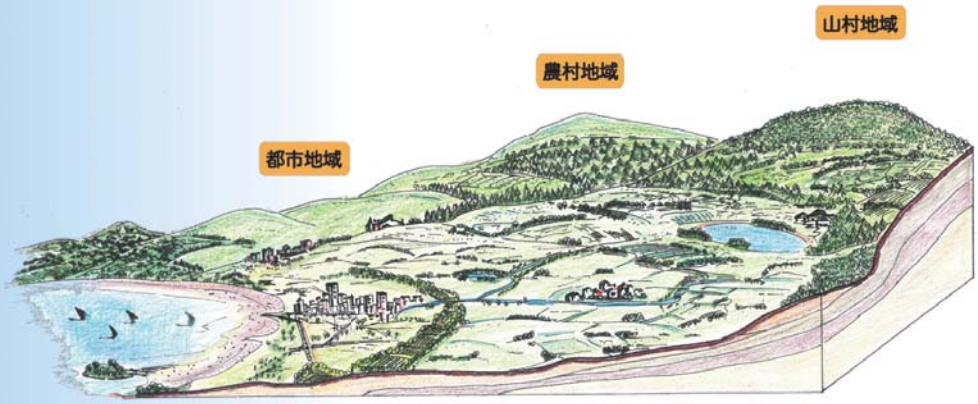
地域創成科学科では、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、農業基盤に関連する防災を含む保全・管理技術、環境アセスメント手法やそれらを連携する事業、地域マネジメント手法、環境教育といった教育研究を通じて、持続可能な地域社会の創成に資する地域社会の担い手となる人材の育成を目標としています。

我が国の里山等の農山村地域は、水資源涵養や食料生産、環境保全等の重要な役割を担ってきました。しかし、少子高齢化や都市域への人口集中にともなう過疎化の進行によって、農山村地域の担い手不足が顕在化するとともに、頻発する自然災害に対する不安等と相まって、地域社会の存続自体が危ぶまれています。このような課題に対して、地域環境科学部では平成23年2月に「地域づくりシンポジウム」を開催し、地域環境科学が果たすべき役割について議論しました。その後も議論を重ね、農山村地域を保全・再生し、持続的発展を促していくためには、林学・農業工学・造園学という既存の学問分野に囚われることなく、学部横断的に「ひとづくり（教育論）」、「ものづくり（技術論）」、「ことづくり（計画・政策論）」の視点をもって取り組んでいく必要があるとの共通認識に至りました。そして、地域環境科学を構成する3つの学問分野を融合・発展させ、「ひと・もの・こと」づくりに基づいて、多様な生物を育む伝統的産業である「農」の振興、人々の安心・安全な生活を維持できる『持続可能な地域社会づくり』を目指す新たな学問分野を創設することとし、これを『地域創成科学』と名付けました。

地域創成科学は、源流域から中山間地域を経て平野部に至る農山村地域、都市地域を対象とし、自然環境に配慮した持続可能な地域の創成を指向した実学実践型の教育研究を行うとともに、地域社会を担うリーダーの育成を目指しています。

『持続可能な地域社会の創成』という大きな目標に向けて、東京農業大学地域環境科学部から地域創成科学という４番目の矢が放たれます。受験生の皆さん、私たちと共に新しい道を歩んでみましょう！

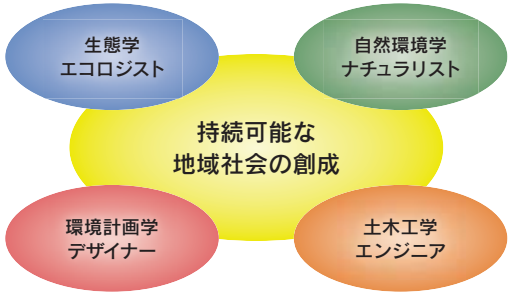
Fourth arrow with your force ！



地域創成科学の目指すもの

社会的使命と役割・人材育成と歩み方

地域創成科学は、これから挑戦する新しい学問分野です。
今日の切実な気候変動に対する緩和と適応、生物多様性の保全、防災・減災、故郷の風景の復興、縮退する農村地域の再生、環境が経済を生み出すグリーン経済等、これらすべてが『地域創成科学』の扱う課題です。
これらの課題解決に向けて、生態学（エコロジスト）、自然環境学（ナチュラリスト）、土木工学（エンジニア）、環境計画学（デザイナー）の４つの専門分野の視点から地域創成を科学します。



本学科が目指す人材育成

①自然環境、生活環境および社会環境の関わりについて広い知識と豊かな感性を有する人材
②観察力、論理的思考能力、高い倫理観を有し、フィールドにおける多様な課題の解決に向けて積極的に行動できる人材
③生物文化多様性や土地・社会資本の保全、地域振興等の観点から持続可能な地域の創成に貢献できる人材

地域創成科学科では、こんなことが学べます。研究できます。

植物・エコロジー

樹木・樹木医

生き物・ビオトープ

伝統知・農文化

森・環境保全

世界遺産・文化的景観

都市・再デザイン

里山・棚田保全

復興・防災・減災

流域・水環境

『経験と実践』から『知恵と技』を学び、 持続可能な地域環境を創成する人材を育成

教育方針・カリキュラムポリシー

地域創成科学科では、3 つのステージで教育します。

1. ファーストステージでは、地域環境を構成する生物、土、水、地形地質および文化や社会といった基本構成要素にかかる基礎科目を学びます。
2. セカンドステージでは、生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、地域防災や農業基盤に関連する保全・管理技術、環境教育や地域マネジメント手法などの専門科目を学びます。
3. サードステージでは、専門知識を活かし、持続可能な地域づくりを考究する実習・実験・演習及び卒業論文などの総合化科目を学びます。

2分野・4研究室体制の教育研究

自然再生分野

保全生態学研究室　地域環境保全学研究室

- 自然環境の適切な保全・再生手法
- 生物多様性に配慮した農業基盤の保全
- 植物による環境修復・緑化技術
- 伝統技術に基づく植栽管理技術
- 植物・植生、動物・昆虫の生態調査
- GIS による地理空間情報技術

GIS は Geographic Information System の略で「地理情報システム」

地域マネジメント分野

地域環境工学研究室　地域デザイン学研究室

- 地域防災の担い手づくり
- 農業基盤の保全、管理技術
- 自然と共にデザインする環境計画
- 地域（風土）の伝統知、技術、農文化の記録
- ESD 等の環境教育プログラムの開発
- 地域連携によるコミュニティデザイン
- バイオマスの有効利用

ESD は Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」

実験・実習・演習を柱としたカリキュラム体系 ※必修科目

		1st Stage ファーストステージ			2nd Stage セカンドステージ			3rd Stage サードステージ	
		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
総合教育科目	全学共通	フレッシュマンセミナー※	共通演習※						
		情報基礎（一）※	情報基礎（二）※						
		インターナショナル・スタディーズ（一）	インターナショナル・スタディーズ（二）	キャリアデザイン	ビジネスマナー		インターンシップ		
		スポーツ・レクリエーション（一）	スポーツ・レクリエーション（二）						
外国語科目	学部共通 全学共通	英語（一）	英語（二）	英語（三）	英語（四）	TOEIC 英語初級	TOEIC 英語中級		
		英語リーディング（一）	英語リーディング（二）						
		中国語（一）	中国語（二）						
		ドイツ語（一）	ドイツ語（二）						
専門教育科目	基礎科目 学部共通	生物学	物理学	統計学	日本国憲法	技術者倫理			
		化学	科学の歴史		地域と文化	現代社会と経済	国際関係と社会問題		
		地学	文学概論						
		哲学							
	専門科目 学部共通	地域環境科学概論	地球環境と炭素循環	環境学習と体験活動					
				源流文化学					
	学際領域				地理情報システム論※	環境アセスメント論※			地域創成関連法規
	自然再生分野 保全生態学	基礎植物学※	里山生態学概論※	保全生態学※	自然再生施工論※	樹木医学概論	作物栽培管理学		
				環境植物学※		群集生態学	土壌肥料学		
	自然再生分野 地域環境保全学	地域環境論※		野生動物と生息環境※	野生動物資源の管理	植栽技術論	環境修復論		
				景観生態学※		農域植生学	農域空間情報論※		
	自然再生分野 地域環境工学	実用数物科学※	施設材料学※	測量学※	農域防災論※	農域物質循環論※	農地保全学		
				土と水の科学※		農業基盤工学	河川水文学		
	地域マネジメント分野 地域デザイン学		農村・都市交流論※		環境教育学※	地域環境計画学※	文化産業・観光計画学	農と伝統文化	
					合意形成デザイン論※	地域環境政策学		農と健康	
		地域交流実習※	地域創成フィールド実習（一）※	地域創成フィールド実習（二）※ 測量実習※	地域創成総合実習（一）※ 地域創成総合実習（二）※	農山漁村インターンシップ	専攻実験・実習（一）※	専攻実験・実習（二）※	卒業論文※
教育内容		基礎・基本 学問への動機づけ教育 発見する学びの喜び			専門・応用 専門知識の解きほぐし教育 理解する学びの楽しさ			総合化・展開 総合化の自信づけ教育 実践・解決する学びの達成感	

豊富な実習と演習

3年次から4専攻コース選択制による実践的専門教育

地域交流実習

東京農大との連携協定による地域で食と農、環境体験、文化体験を通じた地元住民との交流実習。

農家に学ぶ。現場からの気づき。

地域創成フィールド実習（一）・（二）

地形・水環境、植物・動物、気象、景観、歴史、文化等の地域資源を発見する調査分析方法、地域づくりに活かす計画作法を学ぶ。

自然環境の調査分析、考察する。

測量実習

距離測量、水準測量、平板測量、コンパス測量、トラバース測量までの一連の測量技術を学ぶ。現場計測から現況図の製図技法を習得する。

フィールドサーベイ技術を学ぶ。

地域創成総合実習（一）・（二）

自然環境・社会環境調査から抽出発見された地域資源を活かし、グループディスカッションなどを通じて持続的地域づくりの計画作法などを学ぶ。

まちづくりワークショップ作法を学ぶ。

農山漁村インターンシップ

国内外の都市や農山漁村等の暮らしや生業を体験し、業と地域文化の関連に理解を深め、地域再生、地域活性化に貢献する人材育成のためのインターンシップ研修。

プロから学ぶ。先輩から学ぶ。

卒業論文

課題発見から問題解決に至る研究作法を学ぶ。保全生態学、地域環境保全学、地域環境工学、地域デザイン学の各研究室で行う。

研究成果を発表する。

保全生態学研究室

Lab. of Conservation Ecology

地域の自然を適切に保全·再生することを目的として、生物の生理生態的特性や生活史、生物の進化と集団の維持メカニズム、生物間相互作用、植生の管理手法に関して生態学な観点から研究を行う。

地域の自然の仕組みを高い行動力と地道なフィールドワークによって解き明かす

高い生物多様性と豊かな生活文化を持つアジアを幅広く対象とし、熱帯から温帯さらには高山帯まで、地域に生育する動植物の分布パターン、気象·土壌·水など生育地の環境条件、環境に対応した生理生態的特性や生活史特性、遺伝的多様性や地域集団の遺伝的分化について研究していく。

自ら実践して学ぶ自然再生技術

地域の中に研究拠点を設け、長期に渡る学習研究生活を送る中で、地域の風土に育まれた生活·生業に関する伝統的な知恵と技術を実践的に学ぶ。そこで得た知識と自らの研究成果を踏まえ、地域における持続可能な産業の発展と生物多様性保全を両立させるための自然再生と植生管理技術を開発する。

キーワード

生物多様性、生物間相互作用、生活史戦略、環境適応、ファイトレメディエーション、植栽技術、植生管理

研究室活動の様子

北アルプス八方尾根での気象観測

八方尾根での繁殖フェノロジー観察

西表島でのマヤブシキの夜の訪花昆虫調査

小谷村の放棄棚田の再開墾

植物によるカドミウムの吸収除去実験

樹木の移植

主な卒業論文テーマ

- 季節的な訪花昆虫相の違いによるユキワリソウの繁殖成功の変化
- 北アルプス八方尾根の蛇紋岩地における地形による土壌と植物体中の重金属濃度の変化
- 地域在来種を利用したファイトレメディエーション
- 分布上限におけるアカガシの冬季の光合成特性
- 田畑の土手管理放棄がフクジュソウの個体数減少をもたらす要因
- 自然再生地への樹木の移植方法の開発

保全生態学研究室教員·出張講義テーマ

武生 雅明

たきゅう まさあき

教授 博士(理学)

出 身 地 大分県

略 歴 千葉大学大学院自然科学研究科単位取得退学、(財)埼玉県生態系保護協会研究員、科学技術振興事業団科学技術特別研究員、科学技術振興事業団客員情報員、2013年4月より東京農業大学教授

担当科目 基礎植物学、里山生態学概論、群集生態学

専門分野 植物生態学

所属学会 日本生態学会、日本熱帯生態学会、植生学会

研究テーマ 生物の生活史と種間相互作用を考慮した生態系保全技術の確立

出張講義テーマ

1. 気候の季節性は森林生態系にどう影響するのか
2. 熱帯林の生物多様性の魅力と現状、および保全策
3. 里山における生物文化多様性保全

内田 均

うちだ ひとし

教授 博士(農学)

出 身 地 神奈川県

略 歴 東京農業大学農学部造園学科卒業、東京農業大学厚木農場造園部副手、同助手、同講師、東京農業大学短期大学部環境緑地学科異動、2010年4月東京農業大学短期大学部教授

担当科目 植栽技術論·樹木医学概論·自然再生施工論

専門分野 環境植栽学

所属学会 日本造園学会·日本緑化工学会

研究テーマ 住宅庭園·公園·街路にみる緑地植物の植栽管理、樹木の危険度診断、造園技術(造園道具·支柱技術·囲い技術)

出張講義テーマ

1. 都市空間の緑を考える 生産·設計·施工·管理の視点から
2. 身近な緑(庭木·公園木·街路樹)の付き合い方
3. 家庭の緑とその手入れ

亀山 慶晃

かめやま よしあき

教授 博士(学術)

出 身 地 広島県

略 歴 広島大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了、北海道大学大学院地球環境科学研究院にて日本学術振興会特別研究員、博士研究員、短時間勤務職員、東京農業大学にて助教、准教授、2016年4月より同大学教授

担当科目 里山生態学概論、保全生態学

専門分野 植物生態学、集団遺伝学

所属学会 日本生態学会、日本植物学会、アメリカ植物学会

研究テーマ 植物個体群の維持機構と遺伝子流動

出張講義テーマ

1. 花粉媒介者を巡る種間競争ー植物の開花季節と訪花昆虫
2. 種間交雑の生態学ー雑種の形成とフィードバック
3. 栄養繁殖と有性繁殖ークローンの生態学

浅井 俊光

あさい としみつ

准教授 博士(造園学)

出 身 地 大分県

略 歴 東京農業大学大学院農学研究科造園学専攻博士後期課程修了、東京農業大学助教、2016年4月より同大学准教授

担当科目 環境植物学、環境修復論

専門分野 環境緑化学

所属学会 日本造園学会、日本緑化工学会、日本芝草学会

研究テーマ 植物による環境修復技術、環境緑化技術

出張講義テーマ

1. 植物による重金属·大気汚染物質の吸収·吸着除去について
2. 様々な環境圧と植物との関係について
3. 特殊環境の緑化技術について 農山村から都市域まで

地域環境保全学研究室

Lab. of Regional Environment Conservation

現場から学ぶ地域環境保全の理解と洞察力の養成

人間の望ましい生活環境整備、すなわち地域環境保全と持続可能な生産基盤・生存環境の保全・創出を目的とし、開発行為が自然環境や生態系に与えるインパクトの評価と環境再生・修復の技術や対策を研究対象とする。机上ではなく、現場での実践活動により地域環境を把握・理解し、洞察する。

フィールド情報に根ざした動植物・景観の生態学的・地理学的調査研究

植物・植生、動物・昆虫など生物の観察、分布・生態調査をつうじて、地域内の自然環境と土地利用との関係における生物相や生態系を明らかにする。これら野外調査で得られたデータ（属性情報）は、GISなど地理空間情報技術を用いて包括的にとらえ、土地利用の空間配列パターンとプロセス、およびその機能的つながりを研究する。また、自然環境特性や生物の生息適地推定に基づく最適な土地利用計画の手法についても検討していく。

キーワード

野生動植物、生物の生息空間（ビオトープ）、植生景観、土地利用、GIS（地理情報システム）、リモートセンシング

研究室活動の様子

里山の植生調査と植物標本整理

ビオトープに生息する動物たち

玉原高原でのブナの実生観察

ニホンジカの食害調査（南アルプス）

環境保全林づくりの幼苗植栽

高山帯での植生復元活動（北アルプス）

主な卒業論文テーマ

- 土地利用における立地環境と植物群落の分布および植生景観配分
- 時代変遷や社会環境の変化に伴う地域景観の変貌と植物相、植生の分布比較
- 緑地の構造と動物・昆虫の個体群、群集
- 谷戸域に生息する両生類の環境選択
- 多時期のリモートセンシング画像を用いた景観変遷の解析
- 3D技術を用いた地形及び景観構造の解析

地域環境保全学研究室教員・出張講義テーマ

鈴木　伸一

すずき　しんいち

教授　博士（学術）

出 身 地　群馬県

略　　歴　明治大学農学部農学科卒業、横浜国立大学にて博士（学術）を取得。群馬県高等学校教諭（理科・生物）、財団法人地球環境戦略機関国際生態学センター主任研究員を経て2009年4月東京農業大学短期大学部教授

担当科目　地域環境論、景観生態学、農域植生学

専門分野　植生学、植生地理学、植生生態工学

所属学会　植生学会、日本生態学会、植物地理・分類学会

研究テーマ　植物群落の分類と生態およびそのシステム化

出張講義テーマ

1. 日本列島の植生と植物群落-その分布と生態について
2. 外来種問題-身近にみられる外来・帰化植物について
3. 山岳地の自然保全-尾瀬の保護と植生回復を例に

竹内　将俊

たけうち　まさとし

教授　博士（応用昆虫学）

出 身 地　神奈川県

略　　歴　東京農業大学短期大学部および東京農業大学農学部卒業、千葉大学大学院園芸学研究科修士課程修了、都立高尾自然科学博物館非常勤学芸員を経て2012年より現職

担当科目　野生動物と生息環境、野生動物資源の管理

専門分野　昆虫生態学、環境動物学

所属学会　日本応用動物昆虫学会、「野生生物と社会」学会、都市有害生物管理学会

研究テーマ　動物・昆虫の生息環境、植物と昆虫の相互関係、陸生貝類・両生類の生態と保全

出張講義テーマ

1. 昆虫の多様性、生息環境と再生
2. 谷戸域の両生類
3. 野外における動物調査、自然観察会

下嶋　聖

しもじま　ひじり

助教　博士（造園学）

出 身 地　神奈川県

略　　歴　東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了　博士（造園学）東京情報大学助教を経て、2012年4月東京農業大学短期大学部環境緑地学科助教

担当科目　農域空間情報論、地理情報システム論、測量学、景観生態学

専門分野　風景地計画学（自然公園）、環境情報学（GIS・リモートセンシング）

所属学会　日本造園学会、日本レジャー・レクリーション学会、日本景観生態学会

研究テーマ　地理空間情報技術（GIS・リモートセンシング）を用いた環境解析

出張講義テーマ

1. 山岳環境保全の最前線（山岳地の自然再生とその技術）
2. ソーラークッカーを使ったエコクッキング
3. 3Dプリンターを使った身近な環境解析

調査の様子（植生調査）

調査の発表

地域環境工学研究室

Lab. of Regional Environment Engineering

持続可能な循環型社会の創出を目指し、土や水の基本的性質や力学に関する知識を活用して、頻発する自然災害、社会資本ストックの維持管理費の増大、農業によって排出される環境負荷の増大といった現在の地域社会が抱える課題を解決する。

防災に強い地域づくり

東日本大震災以降、持続可能な社会を構築するための地域防災力強化が喫緊の課題とされている。モデル計算による自然災害のメカニズムの解明や、災害危険領域の設定と地域防災体制の提案により、自然災害に強い地域づくりをサポートする。

循環型社会の創出に向けた農村の基盤整備

農道、水路やダムなど農村に存在する様々な施設が常に高い機能を発揮し続けるように、施設を設計、整備する技術を探求する。また、農業から発生する環境負荷をできるだけ小さくするために、適切な保守・管理による施設の長寿命化方法の検討、施設の機能を素早く低コストで診断する新技術の開発、バイオマス利用を中心とした省エネルギー型農法の検証などに取り組む。

キーワード

農業基盤施設、地域防災、ストックマネジメント（施設の維持管理）、農地保全、バイオリサイクル

研究室活動の様子

左上：環境に配慮した地すべり対策
左下：洪水調整機能をもつ農村公園

図：農村における様々な農業施設
（農林水産省 HP より転載加工）

右上：伝統農法を続ける茶園での土壌調査
右下：非破壊で農道の健全度を素早く判断

主な卒業論文テーマ

- 数値解析による砂防施設の土石流調節効果の検証
- 土砂災害危険領域の設定手法に関する研究
- 住民参加型の農業施設管理とその経済性評価
- ネットワークレベルでの農道の路面管理水準の設定と日常点検方法
- 食品廃棄物の肥料化による地域内の窒素・炭素循環の評価
- 未利用有機物を用いた地域活性化の提案

地域環境工学研究室教員・出張講義テーマ

竹内 康

たけうち　やすし

教授　博士（工学）

出 身 地　富山県

略　　歴　東京農業大学大学院農学研究科修士課程修了、長岡技術科学大学にて博士(工学)を取得。鹿島道路(株)技術研究所研究員、東京農業大学助手、同講師、同助教授を経て2006年4月より東京農業大学教授

担当科目　施設材料学、農業基盤工学

専門分野　農業造構学、道路工学

所属学会　農業農村工学会、土木学会、地盤工学会

研究テーマ　農業基盤施設の合理的な維持管理方法

出張講義テーマ

1. 農業生産と農業水利施設のかかわりについて
2. 東京オリンピックと熱環境と道路舗装
3. 歴史から学ぶ道路網の地域振興に果たす役割

本田 尚正

ほんだ　なおまさ

教授　博士（工学）

出 身 地　福岡県

略　　歴　立命館大学大学院理工学研究科博士課程総合理工学専攻修了、大阪府土木職員、大阪府立高専、鳥取大学農学部、茨城大学理学部を経て、2014年4月より東京農業大学地域環境科学部教授

担当科目　実用数物科学、測量学、農域防災論、河川水文学、技術者倫理

専門分野　土砂水理学、河川工学、防災工学

所属学会　土木学会、砂防学会、日本技術士会

研究テーマ　自然災害に対する地域防災機能の評価と強化に関する研究

出張講義テーマ

1. 研究紹介：水・土砂災害発生のメカニズムと防災対策
2. 環境教育：くらしと川の関わり―かわ・まち・ひとづくり―
3. 防災教育：備えあればうれいなし―自然災害から身を守るために―

藤川 智紀

ふじかわ　とものり

教授　博士（農学）

出 身 地　兵庫県

略　　歴　東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了(博士(農学))、独立行政法人農村工学研究所特別研究員などを経て、2017年4月より現職

担当科目　土と水の科学、農域物質循環論、農地保全学

専門分野　農地工学、土壌物理学

所属学会　農業農村工学会、日本土壌肥料学会、農村計画学会

研究テーマ　有機物の利用による環境負荷低減と農村活性化

出張講義テーマ

1. 農業は環境に悪い影響を与えるのか?
2. 農業におけるバイオマスの利活用
3. 農地造成の工夫あれこれ なぜ日本の水田は四角いのか?

農業用水を取水する頭首工の管理は
安定的な生産のために必要不可欠です

農地や水路、農道の整備は耕作放棄の抑制や
農地の防災機能発揮につながります

地域デザイン学研究室

Lab. of Regional Planning & Design

自然と共にデザインする“Design with Nature“を重要なテーゼとし、その地域にちょうど“ぴったり“の美しい環境計画学の実践

本研究室は環境共生、地域共生が志向される今、Sustainabilityの環境の創造、保全、再生のデザイン研究を志す。都市や農山村でのフィールド活動を通じて地域の環境問題や歴史文化的価値のある等の資源を発見し(See)、その課題解決に向けた環境計画、地域資源を活かした環境デザインを描き(Plan)、そのプランを実現するための地域で行動する(Do)、SPDによる地域デザイン活動を通じて知識とスキルを習得し、故郷の風景創成、地域住民とのワークショップによるコミュニティデザイン等に取り組む。

国際交流、都市農村交流、流域連携等の「交流・地域連携」による地域デザイン

森・里・川・海の自然環境の恵みを持続利用し、国際交流、都市農村交流、流域連携等の「交流・地域連携」を通じて、文化、伝統技術、知恵を継承した、人と自然が共生する豊かな暮らしと地域らしい生業を導く「地域デザイン」の方法論と実践的研究を探究する。具体的には、地域のコミュニティ創造や自然と共存するマネジメント等のあり方、世界遺産・世界農業遺産・自然公園等の自然環境保全の施策や環境教育プログラムなどの研究を行う。

キーワード

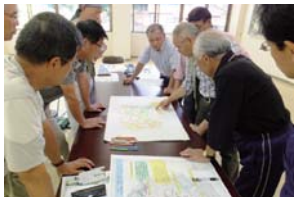
環境デザイン、グリーンインフラ計画、まちづくり、環境政策、インタープリテーション、環境教育、観光レクリエーション計画、世界自然遺産、世界農業遺産、里山と文化的景観

研究室活動の様子

草原学習の様子(阿蘇くじゅう国立公園)

「農のある都市の風景」まちづくり設計案　My Agricity～オシャレな農ライフ～(世田谷区瀬田地区)

故郷の風景創成「居久根イグネの杜の学び舎」(宮城県亘理町)



行政、専門家、地域住民等の連携による里山の保全再生計画(福島県鮫川村)

主な卒業論文テーマ

- 自然公園や世界自然文化遺産、世界農業遺産、ジオパーク等の保護地域における自然･文化的資源の現状と観光価値
- 環境教育プログラム開発とその効果に関する研究
- 地球温暖化による気候変動の適応緩和に向けたアジアモンスーン型グリーンインフラ戦略の提案
- バイオマス資源を活かした物質循環の確保と循環型社会の形成の推進計画
- エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム等の観光レクリエーション計画立案
- 生物多様性地域戦略およびエコロジカル・ネットワークの形成を通じた自然の保全・再生計画の立案
- 地域限定のオリジナリティある都市再生・地域創生に向けた花や緑を核とした地域の再デザイン

地域デザイン学研究室教員・出張講義テーマ

宮林 茂幸

みやばやし しげゆき

教授　博士(農学)

出 身 地　長野県

略　　歴　東京農業大学農学部林学科卒業。現在、東京農業大学 教授。「美しい森林づくり推進国民運動」事務局長(林野庁)、大日本山林会理事・編集委員、日本森林技術協会理事、神奈川県森林審議会長、東京都農林水産審議会森林部会長、NPOとよあしはら理事長、多摩川自然再生協議会会長、多摩川源流大学運営委員、世田谷川場ふるさと公社取締役

担当科目　環境教育学、地域環境政策学、源流文化学

専門分野　森林文化、環境教育学、環境政策学、地域振興

所属学会　日本森林学会、林業経済学会、文化産業学会

研究テーマ　農山村と都市との交流に関する研究、森林共生社会の構築と源流再生に関する研究、流域経済圏研究

出張講義テーマ

1. 流域社会からみる地域創成(流域連携論)
2. 森の不思議な力(森林レクリエーション学の展開)
3. 地域文化と生きる力の創造(ふるさと創成論)

入江 彰昭

いりえ　てるあき

准教授　博士(造園学)

出 身 地　茨城県

略　　歴　東京農業大学農学部造園学科卒業、同大学大学院農学研究科修士課程(造園学)修了、中央工学校土木工学科専任講師、東京農業大学短期大学部環境緑地学科助手、同大学講師を経て2010年10月東京農業大学准教授

担当科目　地域環境計画学、合意形成デザイン論

専門分野　環境計画学、都市農村計画学

所属学会　日本造園学会、日本都市計画学会、農村計画学会

研究テーマ　ヒートアイランド緩和に向けた環境計画の提案、地域の自然環境・歴史文化を活かす地域再生計画の提案

出張講義テーマ

1. 環境共生時代の環境デザイン
2. 市民協働によるランドスケープマネジメント
3. 大学と地域との連携による地域再生

町田 怜子

まちだ　れいこ

助教　博士(造園学)

出 身 地　神奈川県

略　　歴　東京農業大学農学研究科博士課程(造園学)修了、スイスチューリッヒ連邦工科大学アカデミックゲスト、財団法人自然環境研究センター研究員、2013年9月より東京農業大学助教

担当科目　環境アセスメント論、文化産業・観光計画学

専門分野　観光計画学、風景計画学、自然環境保全学

所属学会　地域デザイン学会、日本野外教育学会、日本観光研究学会

研究テーマ　多様な主体との連携による自然・文化資源を活かした地域マネジメント

出張講義テーマ

1. 人と自然とのかかわりから考える環境問題
2. 小学校、幼稚園と連携した環境教育プログラム
3. 世界遺産の保護制度と持続可能な観光利用

学生まちづくりデザインコンペ(設計競技)

世界農業遺産地域における小学校での環境学習

地域創成科学科で取得できる資格

地域創成科学科では、土木、生態、環境を横断的に学び、
教員と学生とのマンツーマン指導による技術、技能の習得により、
地域づくりに貢献できる多くの資格を取得できます

資　格	内　容	取得方法
高等学校教諭一種農業（予定）	教育職員免許法に基づく高等学校の資格免許	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
学 芸 員（予定）	歴史・芸術・自然科学等の博物館で専門職員になるための資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
司　　書（予定）	公共の図書館等の専門職員になるための資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
測量士補（予定）	測量に従事する測量士の助手的役割を果たす。建築・建設・土木の企業で活用できる資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
技術士補（予定）	将来技術士をめざす若手の技術者や技術系の仕事につこうとしている学生が受験可能な資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
登録ランドスケープアーキテクト（予定）	自然と共生し、美しく緑豊かな環境を実現する仕事を実行できる資格	卒業後3年以上の実務経験で受験可能
2級土木施工管理技士（予定）	土木工事に従事する施工管理技術者	在学中に学科試験の受験可能。卒業後1年以上の実務経験で実地試験の受験可能
2級造園施工管理技士（予定）	造園工事に従事する施工管理技術者	
2級ビオトープ計画管理士（予定）	地域の野生の生きものたちが生息・生育する空間を計画・施工する技術者	在学中に受験可能。試験科目の一部免除が認められる
2級ビオトープ施工管理士（予定）		
2級・3級造園技能士（予定）	地域の環境整備、公共緑地工事等に必要な高い技能をもった技術者	在学中に受験可能
自然再生士補（予定）	自然再生に必要な知識を有する自然再生の推進者	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能
樹木医補（予定）	樹木の保護管理、樹勢回復、治療等に関する専門家で、環境緑化全般の技術者として自然の緑を守る仕事に活かせる資格	所定の科目を履修・単位取得し、卒業すれば取得可能

キャリアデザインを磨く資格取得に向けての支援教育

卒業生の活躍の場

地域実学主義
人物を『地域』に還す

地域資源を発見し、地域の将来像を描き、内発型地域づくりに貢献する人

地域を世界的視野でとらえ、
世界遺産、世界農業遺産、ユネスコエコパーク、世界ジオパーク等の
政策立案提言を担う人

卒業生の予想される就職先

想定される卒業生進路先	産業別データの分類
農産物流通業（生活協同組合、農協、道の駅等）	卸売小売業、製造業
建設業、環境コンサルタント業、都市及び地域計画コンサルタント業	建設業
農林業	農林業
観光レクリエーション業（観光会社、宿泊施設等）	宿泊業、飲食サービス業
地方自治体の公務員（一般職・技術職）	公務
教員（高校教諭一種農業）、学芸員	教育・学習支援業
学術研究	学術研究・専門技術サービス業
NPO法人、環境NGO	その他

企業からのメッセージ

東京農業大学卒業生の採用実績のある企業、または卒業生の就職が見込まれる全国47都道府県の企業等に対して実施した「卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」では、非常に多くの企業等が本学科卒業生への採用意向（求人倍率10.1倍）を示し、右のようなコメントを頂きました。

- 地域創成科学科で学んだ学生を是非採用させて頂きたいと思います。
- 私どもは様々な事業を通じて、地域社会と共に歩んでおります。是非、地域づくりの担い手やリーダー人材の育成に力を入れていただき、優秀な社会人を輩出してください。
- 地域創成科学科をはじめ、新設学科で学んだ学生は、今後の行政運営における貴重な人材になると思います。
- 土木業界で必要なカリキュラムが含まれており、是非採用したいと思います。
- 土木分野を専攻する学生が減少傾向にあり、インフラ整備、防災などの専門性の高い技術者を育成する大学等も減少しています。地域創成科学科に期待します。
- 地方で6次産業を営む会社のため、地域創成科学科に期待しています。
- 地域創成は近年及び今後において必要性が高まっている分野であり、当社においても、6次産業化に取り組む方向性の中で、特に地域創成を強く意識しています。